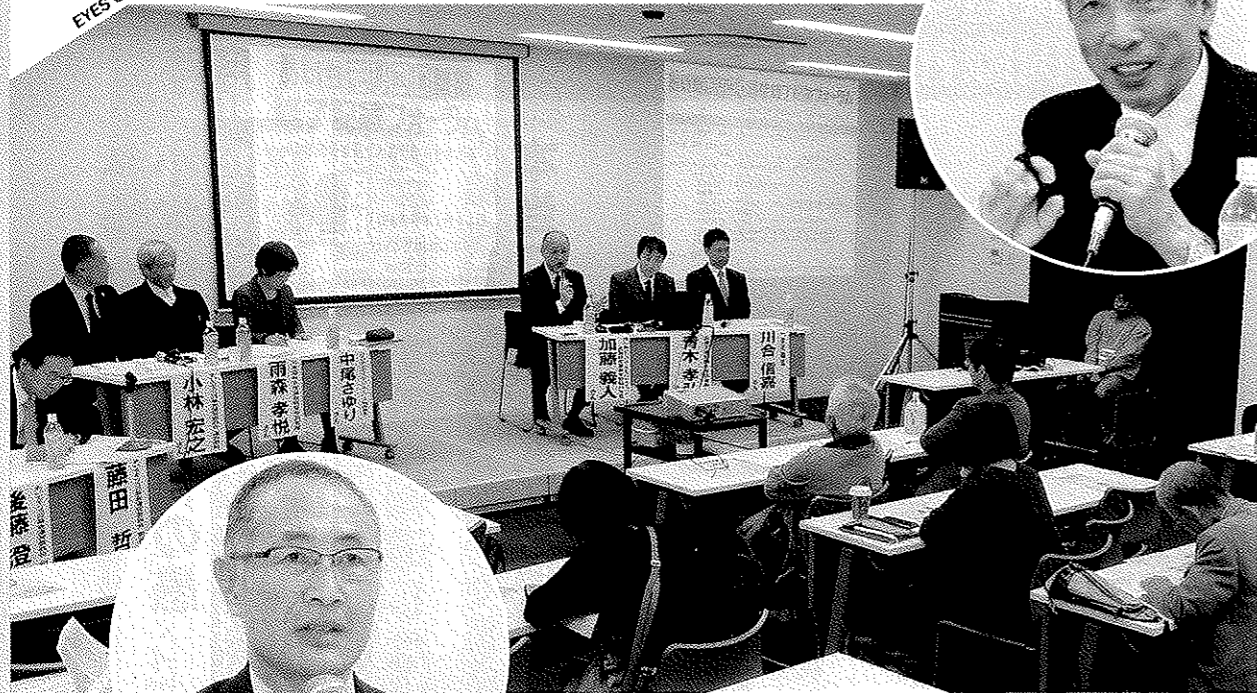


「あいちモリコロ基金の評価とこれからの市民活動」のテーマで行われたパネルディスカッション



▲ コメンテーターを務めた雨森孝悦  
日本福祉大学福祉経営学部教授



▲ コーディネーターを務めた小林宏之  
あいちモリコロ基金運営委員・総合開発機構代表取締役

# 市民活動助成 10年間の成果

## あいちモリコロ基金終了記念フォーラム



▲ 主催者あいさつを行う藤田哲あいちモリコロ基金運営委員会委員長

**今** 年度で終了解散となる「あいちモリコロ基金」(公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金)の終了記念フォーラムが11月12日、ウインクあいちで行われた。

同基金は2005年国際博覧会の余剰金13億円を原資に、中部地方における市民の社会貢献活動を支援すべく07年8月に創設されたもの。以後、市民の自発的な社会貢献活動を対象に年2回公募を行い、毎年合計1億円ほどを給付する10年間の取り崩し式で運用。助成種類を「初期活動助成」「展開期活動助成」「大規模活動助成」の3種類とし、学識経験者10人で構成される運営委員会が助成先の選定や助言を行い、基金サポート組織のNPO法人ボランティアネイバーズが申請者からの相談などを担ってきた。

フォーラムはそうした10年間の実績と成果を踏まえるとともに、16年に休眠預金等活用制度が誕生し市民活動の新たな時代が始まる中、これからの市民活動への支援方法を考えようというもの。基調報告が行われた後、行政職員として市民活動を担当してきた人物や学識経験者らをパネリストに迎えてパネルディスカッションが行われた。

## 中部圏地域創造ファンドフォーラム

### 休眠預金等活用制度の誕生で 民間公益活動への資金の流れをどうつくるか

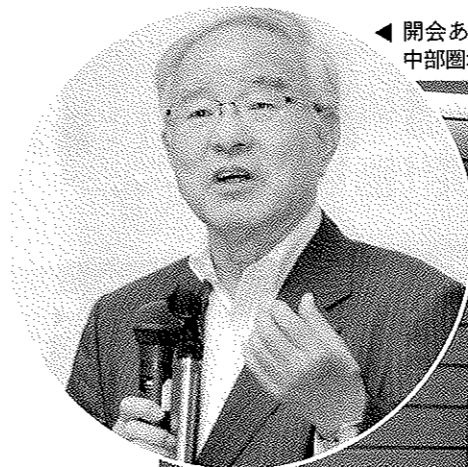


▲ 休眠預金等活用審議会委員を務めた萩原なつ子立教大学教授・日本NPOセンター代表理事が、同基金の基  
本方針などについて基調講演

「あいちモリコロ基金」の後継基金として2018年2月に設立された一般財団法人中部圏地域創造ファンドは、今夏8月5日、名古屋国際センター別棟ホールにて第1回フォーラム「NPO等民間公益活動への資金の流れをどうつくるか!」を開催した。

18年はNPO法が施行されてから20周年に当たることから、その間の民間公益活動の道程を振り返りつつ、16年12月に成立した休眠預金等活用法をどう生かすか、あいちモリコロ基金の経験をどう生かすか、地域の“資源”といえる志をどう生かすかを展望。

基調講演に続いて大西光夫理事が「モリコロ基金はもともと資金があったが、今後は自分たちでお金を作っていくことになる。ビジネスや投資対効果とは異なる評価をどうつくっていくか」と課題を提示し、その後さまざまな立場で活動を行ってきたパネリストらが登壇し活発なパネルディスカッションが行われた。



▲ 開会あいさつを行う稲垣隆司  
中部圏地域創造ファンド理事長

▶ 基調講演者に2人を加えたパネリスト、2人のコメンテーターらによって行われたパネルディスカッション

